

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

2019年! 猪突もーんとっ進!!
今年もよろしくね☆



ゴールドフェスタでおなじみ。もーん父さんとお友達の鹿児島県伊佐市のPRキャラ・イーサキング様。遠方のお友達とはこういう機会がなければなかなか会うことはできませんが、羽生の会場でもご挨拶を交わしました。会場に集まったキャラ同士、心持ちはみんな同じく、そして熱い想いをもっています。

「みんなを笑顔にしたい、地域を盛り上げたい」

もーん父さんも同じ思い。みんなから元気と勇気もらった1ショットをお届けするとともに2019年スタートします。

間もなく「平成」から新元号に変わる今年は、わが国にとっても大きな節目の年。迎える5月の連休は、10日間という超大型連休。いろんなことが目まぐるしく変わる今年、皆様にご注目いただき、多くの方に足を運んでいただけるよう仕掛けをご用意してお待ちしております。

《金山博物館の周辺から話題をひろって・3》

正月も花咲け“十月桜” —下部リバーサイドパークの冬の桜—

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

まずは、新年あけましておめでとうございます。皆々さま方の益々のご繁栄とご多幸をご祈念申し上げます。

さて、正月といえば、門ごとに常葉松を立て、一年の幸はもとより末永い繁栄を祈ります。そう、私たちは、正月には松といった具合に、折々に自然物に心を寄せながら暮らしを立ててきています。そんなこの国の伝統にならない(ちょっと言いすぎかな)、唐突ですが今回は桜の話です。

まずは右の写真Aをご覧ください。これは昨秋に投入された湯之奥金山博物館のミュージアムショップの新作グッズとなる缶バッジの1つです。ご覧のとおり博物館のマスコットキャラのもーん父さんを主役として配し、背景に富士山と桜をアレンジしているもので、かわいいデザインが好評を博しています。その上の方にたどたどしいローマ字(もーん父さんはお子様なので)で“富士山は千円札の裏側”といった説明がありますが、そのとおり現行の日本銀行券のうちの千円券の裏面からとったデザインとなっているものであります。

ここで注目は、桜の花です。我われ日本人に最もよく親しまれ、国を象徴する花とされるほどです(例えば『広辞苑』第七版は「国花」の項で「日本では、桜の花の異称」とも)。

お正月に桜の話題、どうでしょう。季節はずれ…? そうですね、ふつうは…。

しかし、わが湯之奥金山博物館に隣り合う下部リバーサイドパークの中に1本だけですが、10月から咲き始め、春の初めまで咲き続ける桜の木があるのです。初めは名前がわからず、10月に咲き出すことだから十月桜とも思っていたのですが、3月まで花があるので四季桜かと



A



B

考えたりしていました。

どんな花かを特定するためには、花(木)の特徴を整理しなければなりません。その花は、白い花弁で八重です。木は高さ3m余りでそう大きくはありません(上掲写真のB)。こうした特徴から今では、一重咲の四季桜ではなく、八重の十月桜がよいという理解になっています。

さて、この十月桜ですが、昨年(2018)の10月6日に今シーズン最初の一輪の開花が確認されました。でもその後なかなか咲き進まず、木全体が何か元気がない感じだったので、ネット上で知りえた対策として十月中旬に施肥を試してみました。するとどうでしょう。しばらくして、まるで花咲爺の魔法にかかったように花が元気よく次々に咲きはじめたのです。つぼみも枝中にたくさん見られるようになり、この原稿をまとめている12月中旬段階でも、十月桜は、一段と厳しくなった冷え込みをもろともせず、咲き続けてくれているのです。

振り返れば2018年は、自然の猛威が全国的に牙をむくことが多かった年かと受け止められるところがあり、いまま災害により家屋財産を失い、仮設住宅での起居を余儀なくされている方々も少なくない状況が見られます。

そこで新年は明るい良い年になるようにと願をかけ、この十月桜を中心に、どこよりも早

い桜の企画展を考えました。実物の桜は十月桜
だけですが、話題としての桜はいっぱいです。

金山博物館のある身延町には「しだれ桜の
里」プロジェクトがありますが、「町の中に、た
くさんの満開のしだれ桜があったらすばらし
い」との町内の高校生の発案を受け、町を挙げ
て取り組みが進められています。身延山久遠寺
の有名な樹齢400年とされるしだれ桜を先頭
に、町中にしだれ桜が展開したら本当にすばら
しいことで、植樹まもない木の生長が楽しみで

す。

また下部リバーサイドパークには、十月桜の
ほかに数多くのソメイヨシノや、それに先駆け
て咲く河津桜など、数種の桜が3月から4月
にかけて辺りをにぎわせてくれます。

ということで、正月も咲く十月桜を軸に、春
に周辺を彩る桜たちの情報を集めてパネル展
を開催し、2019年の明るいスタートを切りた
いと思います。本年もどうぞよろしくお願い申
上げます。

エントランス壁面はもうひとつの“展示室”

壁面展示は、シーズンごとに変えております
が、観覧無料でも展示室並みの情報をもって、

様々にご紹介しています。ご来館の際は、季節
に合わせたパネル展示をぜひご覧ください。

「山梨の遺跡展2018」パネル展

—11月9日～12月2日—

昨年度に山梨県内で行われた発掘調査の成果について、県
埋蔵文化財センターの情報によって、約1か月にわたって
エントランス壁面展示をいたしました。ローカルニュースに
も取り上げられ、多くの方にご覧いただきました。



どこよりも早い桜情報！ 新春サクラ情報パネル展 —正月からウキウキ気分♪ in 金山博物館—

展示期間：平成31年1月2日(水)～15日(火)



博物館周辺では3月から4月にかけて「ソメイヨシノ」、「河津
桜」など、数種の桜が辺りをにぎわせてくれます。「十月桜」を中心
に春に周辺を彩る桜たちの情報を集めて、どこよりも早く、桜情報
パネルを展示いたします。ご来館の際には目下、冬の寒さに負けず
力強く咲き続けている実際の十月桜にも目を向けてください。



パネル写真展 湯之奥金山遺跡総合調査 —30年の軌跡

展示期間：平成31年1月27日(日)～2月24日(日)

それまで伝説的な存在だった金山跡に、学術研究のメスを入れ、その歴史的意義を
解明した総合学術調査から30年が経過する今、出発点となった当時の調査の様
やその後の調査研究の足取りを写真パネル等で紹介します。



活動報告

岐阜県高山市 砂金採り選手権大会

9月16日(日)

毎年9月の3連休に行われ、大会オブザーバーとして小松学芸員が赴いている岐阜県高山市の砂金採り選手権大会。昨年は台風のため中止となりましたが、今回は晴天に恵まれ、報道関係のカメラも多数で大いに盛り上がった大会となりました。「親子ペア部門」など新設部門もあり、清美地区の豊かな自然の中で、アットホームな雰囲気の中での非常に良い大会となりました。なお、博物

館応援団をはじめ、当館でのお馴染みさんもたくさん参加し、ここでも選手として裏方として活躍する皆さんの姿がありました。関係者の皆さん、本当にご準備と開催、諸々お疲れ様でした。当館の大会は7月、高山市は9月と夏の間に2つの砂金採り競技大会が開催されていますので、スポーツ砂金採りに出場したことがない方は、ぜひ参加してこの楽しさを体感してください。

NHK情報番組「あさイチ」にて生中継!

10月3日(水)

NHKで放送中の朝の情報番組「あさイチ」内のワンコーナーで砂金採り体験室を生中継で紹介いただきました。今回のテーマは「砂金を採って番付に乗せよう!」というものでしたが、全国で10か所に満たない数少ない砂金採り体験、一度はおいでいただきたいと願いを込め、もーん父さん含めた博物館オールスタッフで8分間の生中継となりました。開館から20年経過している当館ですが、全国区の番組で取り上げていただ

き、放送後には「山梨に砂金採りがあることを知らなかった」と多くの方がご来館くださいました。

余談ですが、この日、レポーターの藤原さんのお出迎えから始まり、砂金缶の紹介、最後のバイバイショットまで、いたるところで活躍したもーん父さんは、この生中継後、静岡県観光キャンペーンでPR活動というスケジュールで実に引っ張りだこでした。



現場確認調査(茅小屋、内山)

10月26日(金)

全国各地に甚大な被害をもたらした台風と豪雨は、山梨県内も同様の被害をもたらしましたが、その影響は山深い金山遺跡現場にも及んでいるかもしれないと、実に1年ぶりに内山金山遺跡の現場確認に行ってまいりました。町内も甚大な被害を受けたことに加え、遠景で見る大ガレの崩れも大きく進んでいたため、覚悟を

持って出かけましたが、幸いにも茅小屋金山も内山金山も現地は大きな影響を受けず無事でした。むしろ、一年を通して猪などの獣害の大きいことを確認しました。合わせて、今回の現場確認により、内山金山の現場への比較的安全なルート確認が出来、大きな成果を得ました。



山梨県生涯学習推進センター事業講義

10月13日(土)

この日、JRさわやかウォーキングが開催され、下部温泉駅は多くの方々の乗降で賑わい、もーん父さんはお客様のお出迎えとお見送りに出向きました。朝の電車お出迎えの後は、南部警察署の防犯キャンペーンのため別の場所へ赴き、終わって再び、帰りの電車のお見送りをしました。そんなもーん父さんが大忙しだっ

た頃、館内では午後1時から3時まで、山梨県生涯学習推進センターの事業で「甲斐金山と甲州金制度の確立」というテーマで、小松学芸員が担当で講義が開催されました。

多くの皆さんが興味を持ち、博物館に立ち寄っていただけるよう、多方面での活動を展開しています。



平成30年度 第2回博物館運営委員会

11月6日(火)

博物館運営委員会は、委員の先生方に博物館の運営方針や活動を審議評価いただく重要な会議で毎年2回開催されています。去る11月6日に2回目の委員会が開催されました。1回目の委員会(7月5日)での提言や課題への対応を踏まえた活動報告や運営状況、新年度の年間事業計画の報告の中で、ご出席の委員の先生方からは、これまでの活動への評価と、今後の館活動に大変参考となる貴重なご意見を活発に示していただきました。



菊の花を飾っていただきました

11月中

花の色が少なくなっていく季節、栃代金山調査などでお世話になっている町内在住の依田茂さん萬代さんご夫妻が、手塩にかけて見頃となった菊の花を「2週間くらいは楽しめるから」と、軽トラに載せて博物館入口に届けてく

ださいました。

鉢植えのきれいなお花が周囲の山々の紅葉のコントラストと共に、ご来館のお客様の目を楽しませてくれました。ご夫妻の嬉しい心配りに改めて感謝申し上げます。



じえる☆キャンドル作り体験教室

12月15日(土)

透明ガラスの中に、カラーサンドとガラス細工のモチーフを配置し、透明ジェルワックスを流し込んで作るジェルキャンドル体験教室。当館では3回目の開催となりますが、小さなお子様も体験できる人気の冬事業で、今回も大人からお子様まで幅広いお申込みをいただき、皆さん素敵な作品を仕上げられました。



上げられました。

10色のカラーサンドをどう組み合わせるかが重要ですが、思い思いに重ね、図らずもポップな作

品に仕上がっていく子供たちや、サンドアートと呼ばれるようなテクニックを取り入れてワンランク上の作品を目指すお母さんなど、参加者の数だけ“小さな世界”を表現した作品が出来上がりました。



また、余った時間を利用してこれまた簡単に作ることができる、貝殻のプチキャンドルも作り、みな嬉しい、楽しいという感想をもって作品をお持ち帰りになりました。

「松ぼっくり工作教室」

12月16日(日)

前日のジェルキャンドル作り体験教室に続いて、初開催となる松ぼっくり工作教室。親子でのご参加を多くいただき好評のうちに終わることができました。

今回の特大松ぼっくりは、松江高専の久間先生がご用意してくださった島根県産。そして中くらいの松ぼっくりは、静岡県にお住いの常連のお客様が、当館での工作開催を耳にし、善意で集めてくださったものです。

2つの大きな松ぼっくりを贅沢に使い、それぞれに着色したりモールを付けてデコレーションして

いきました。「大人の方が夢中になってしまう」とお父さんお母さんから苦笑いも出るほど、真剣に取り組んでいた様子が見て取れました。親子で協力しあって、それぞれに多様なツリーが仕上がりました。また開催してほしいという声をいただき、冬の事業としても定着しそうです。



「第9回世界キャラクターさみっとin羽生」

11月24日(土)、25日(日)

秋は活動の季節。地元のおまつり、公民館活動、防犯キャンペーン、交通安全運動など、日によっては、皆さんを笑顔になってもらえるよう、一日のうちで何か所ものイベントをかけ持つもーん父さん。今回3回目となる埼玉県羽生市で開催される大きなゆるキャラの祭典『世界キャラクターさみっとin羽生』に参加してきました。もーん父さん自身を知ってもらい、それをきっかけに博物館や身延町を訪れてもらうための重要な活動です。

もーん父さんは博物館と身延町のPRにこれからも頑張りますので応援をよろしくお願いします。

なお、埼玉県志木のカパル君の逆転優勝で幕を降ろしひと段落した今年の「ゆるキャラグランプリ」。1300体以上エントリーされている中、もーん父さんの得票数は1,081票、堂々の261位でした。期間中、投票・応援して下さった多くの皆様、改めてありがとうございました。



鉱山臼研究が大きな転換期を迎えようとしています

毎年多くの研究者により多くの研究成果が発表されますが、論文や書籍などとしてその成果を取りまとめなければ周知されません。学会発表もその一つです。近年、各地での金山史研究が深まる中で「黒川型」、「湯之奥型」、「定形型」に加え、様々な鉱山臼が発見され、「山ヶ野型」や、素朴な小型鉱山臼(=小型の黒川型)などの存在も確認され、さらに詳細な検討がなされ始めています。その中で甲斐金山の鉱山臼を中心に研究してきた当館の成果について小

松学芸員が研究発表を重ねています。9月13日(水)には資源素材学会秋季大会が福岡工業大学で開催され、また11月16～18日には、日本鉱業史研究会現地研修会が鹿児島県串木野で行われました。いずれの会でも発表の機会をいただき、鉱山臼研究の現状について報告いたしました。今後、さらに深まりを見せる鉱山臼の分野。随時ご紹介していきますのでお楽しみに。

鉱山臼をご寄贈いただきました

このほど、吉谷明典さん(長野県在住)より、新潟県鳴海金山と富山県虎谷金山の小型鉱山臼をご寄贈いただきました。お若い頃に鉱山遺



跡として認知されていなかったような地域を探訪し、山中で見かけて搬出してきた臼ということで、氏曰く「その時は特に考えなかったけれど、いろいろ調べて知れば知るほど、こちらで研究資料として活用してもらうのが最良ではなかろうか」と考えられ今回のご寄贈に至りました。鉱山臼研究を推進している当館にとってたいへん有難いお申し出で、今後の研究資料として末永く活用させていただくこととします。

町民ウィークにご来館の町民の皆様からご満足の声いただきました

昨年の20周年記念事業として開催した、町民対象事業「町民ウィーク(9月9日(日)～15日(土))」。町村合併施行日の9月13日を軸にした一週間、身延町民だけの特典として博物館観覧無料期間を設けたものです。一度きりのイベントではなく継続的に実施し、地域博物館として地元の方にきちんと知っていただきたいという想いの中、今回も多くのご利用をいただきました。「開館時に来た以来、来たことがなかった」という方もいて「改めて来てみたらこんなに楽しいとは思わなかった」と、ご満足くださったお声を多数頂戴いたしました。地域

の歴史や宝を地元の方に再度認識していただき見てほしいということがねらいで、出月館長の熱のこもった対応がありました。



〔 第7回「金山遺跡・砂金研究フォーラム」のお知らせ 〕

■期日：平成31年2月2日(土)午後1時～5時 ■場所：博物館映像シアター（博物館2階）

■参加費：500円(資料代として) ■定員：60名（※発表時間は15分+質疑応答5分=20分）

■主催：博物館応援団Au会 ■共催：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

参加お申込み・問い合わせは、湯之奥金山博物館内・湯之奥金山博物館応援団事務局
(0556-36-0015)まで。

「博物館応援団Au会」の皆さんが企画開催する、大好評の“誰でも気軽に参加できる大人の研究発表会”7回目を迎える今回は2月2日(土)。発表、ポスターセッション、内容もりだくさん。専門的知識不要。アットホームな雰囲気ですので、難しく考えず、どなたさまもお気軽にご参加ください。



発表予定者と演題 ※順番は確定ではありません。

出月洋文(湯之奥金山博物館館長)「炭焼き釜についての考察」

中村軒一(愛知県)「伊豆の諸金山と砂金の考察」

久間英樹(松江工業高等専門学校教授)「鉛石採掘方法の時代変遷」

広瀬義朗(神奈川県)「先人に学ぶ、ゆり板の使い方と設計の思想」

三木昌信(兵庫県)「砂白金を追いかけて」

若月章弘(静岡県)「西オーストラリア州でのゴールド・ナゲット探査」

野村敏郎(灘中高地学教諭)「スルースボックスの砂金回収率に与える転礫の影響を調べる実験」

ポスターセッション 小松美鈴(湯之奥金山博物館学芸員)「鉛山白の類型と分類について」

久間先生の「錯覚マジックの世界へようこそ☆」参加受付開始!

■期日：平成31年3月9日(土)午後1時～3時30分
(於多目的ホール)

■講師：久間英樹先生(松江工業高等専門学校教授)

■参加費：2,000円(テキスト代・キット代として)

■定員：10名(対象：高校生以上。お子様同伴・保護者同伴可)

松江高専教授・久間英樹先生の指導の元、錯覚マジックのキットを製作する講座を初開催。モノづくりの久間先生がなぜマジックかということ、実は心理学専門の顔ももっていたのです!

今回は、比較的大人向け。テキストはお持ち帰りいただき、自身でも活用可能。受講後は、周りのみんなに心理学を駆使したマジックを周囲に披露しちゃいましょう。ということで、いつもとちょっと視点を変えたマジック講座、ご参加ください。お問合せ・お申込みは博物館まで(0556-36-0015)



いつもはモノづくりでお馴染み・久間先生

編集後記



2019年幕開けです。新年といえば書初め。書初めといえば書道、書道といえば和紙!ということで、少し前ですが秋の「和紙まつり」にお出かけした際、山梨学院の生徒さんたちと、もーん父さんとのワンショット。書道パフォーマンスを終えたみんなと連写でばっちり☆今年はいノシ年。スタッフ一同、こんな元気をキープして、もーん父さんと共に“猪突も一進”でがんばって参りますので本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

博物館だより

第86号 平成31年1月2日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス <https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん  